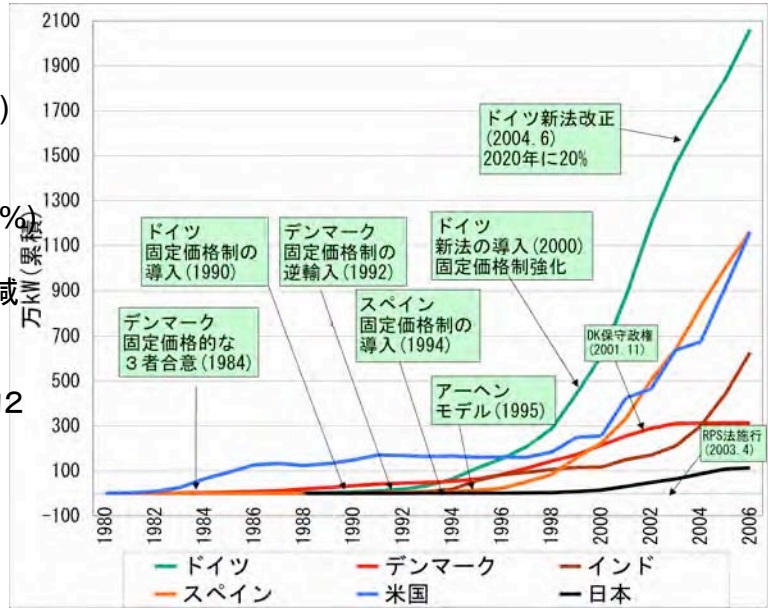


自然エネルギーの「本流化」ための成功事例:ドイツの風力発電

ドイツは、1990年に自然エネルギー電力からの固定価格制(EFL)を導入して以来、風力発電の爆発的な普及に成功し、「3つの配当」を得ることに成功した。2000年に導入された新法(EEG)では、風力以外の自然エネルギーの普及も考慮した制度改革を行った。

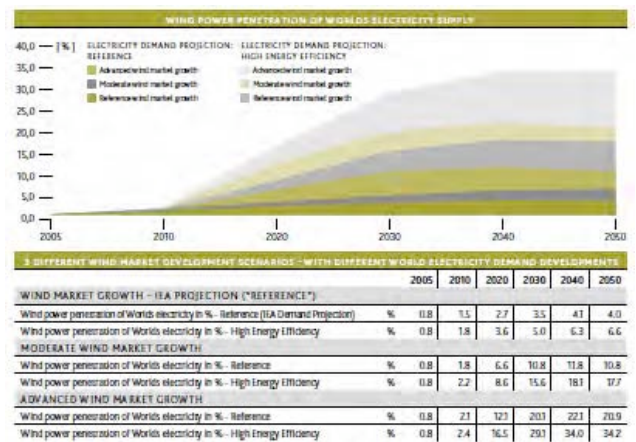
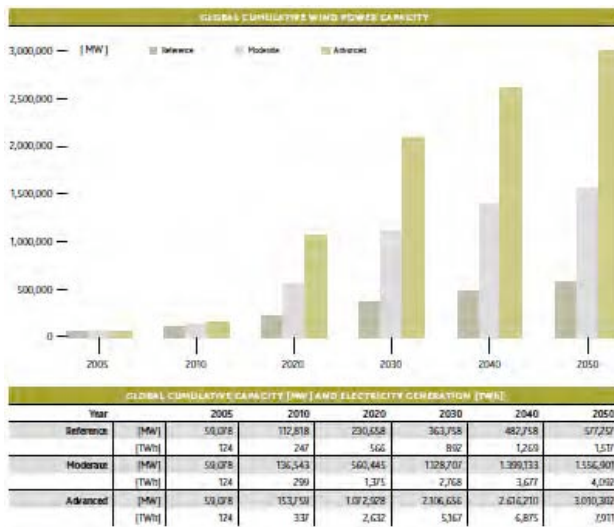
- 総設備容量(2006年末):2062万kW
-日本:139万kWで13位に転落
- 2006年の導入量:219万kW(12%増)
- 総発電電力量(2005年):265億kW
-全電力量の4.34%
(06年:自然エネルギー合計で12%)
- CO2削減量(2006年):
-自然エネ全体で1億トンCO2削減
- 風力産業の総売上高(2005年)
-45億ユーロ(約6000億円)
-自然エネ全体で164億ユーロ(約2兆5800億円)
- 雇用効果:23万人(2006年)



* 主要な数字はドイツ環境省による

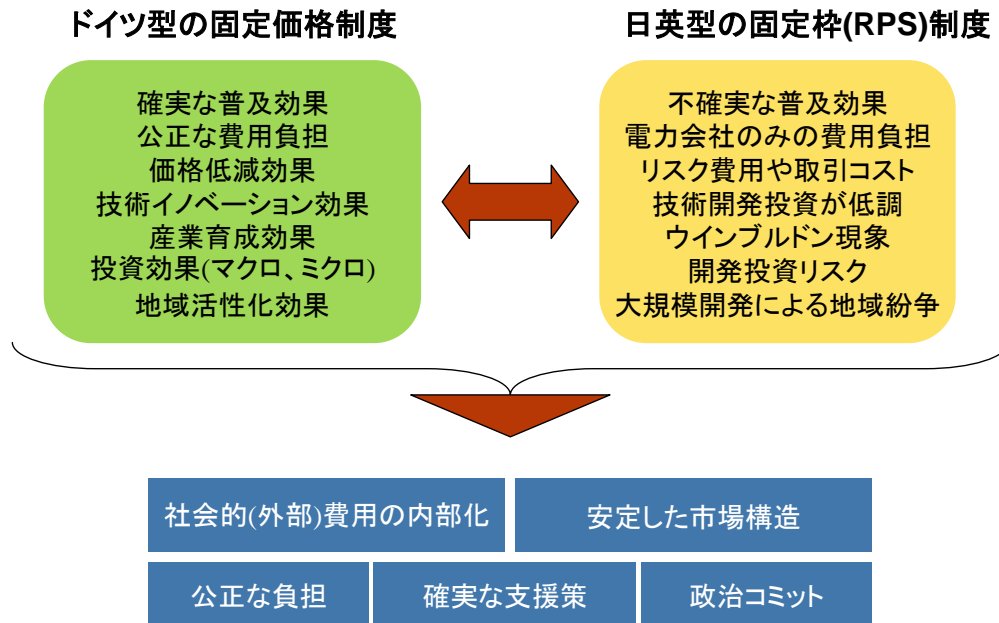
世界風力協会(GWEC)の2050年風力見通し

世界全体で、2020年に10億kW・電力供給の17%、2050年に30億kW・34%を見込む
2030年の市場規模は850億ユーロ(約13兆円)、約210万人の雇用創出効果



価格低減をあらかじめ織り込んだドイツ型固定価格制のメリット

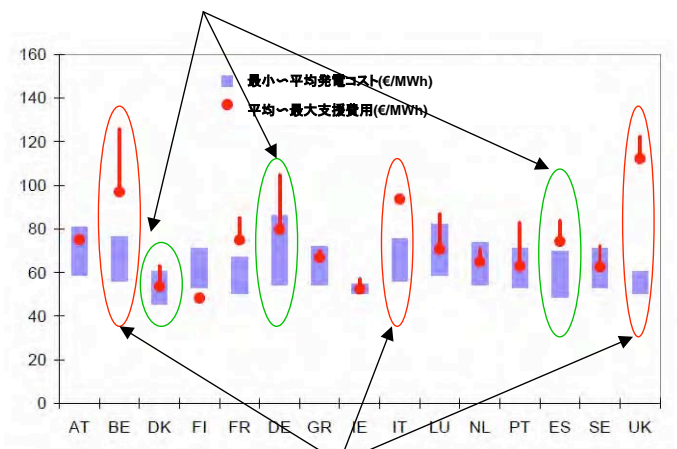
ドイツ型固定価格制度は、公正な費用負担においても、確実な支援効果でも、そして費用効率性でも、RPSに対して優れている。



固定価格制vs固定枠(RPS)制

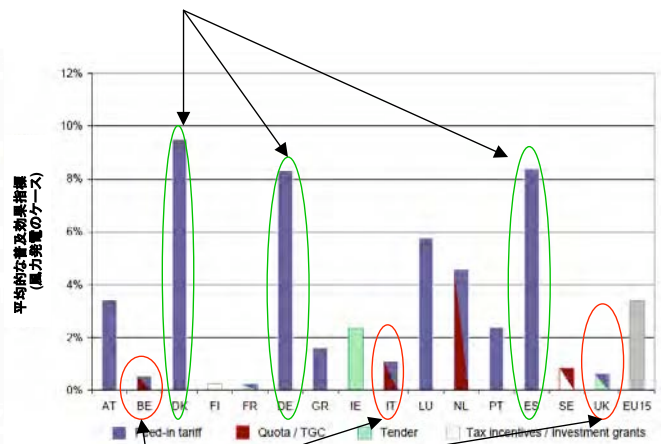
日本が採用したRPS法は、普及効果に劣るだけでなく、費用効率性も乏しいことがEU15カ国の経験から明らか。しかも日本のRPS法は、英国のRO政策よりも劣る。

固定価格制を導入した代表的な三カ国(ドイツ、スペイン、デンマーク(2001年まで))では、支援費用も小さく、また、コスト低減効果ももっとも大きい。



RPSを導入した代表的な三カ国(英国、ベルギー、イタリア)では、コストに対して支援費用が大きい。また、コストは固定価格制と大差ない。

固定価格制を導入した代表的な三カ国(ドイツ、スペイン、デンマーク(2001年まで))は、圧倒的に導入効果が大きい。



RPSを導入した代表的な三カ国(英国、ベルギー、イタリア)は、導入効果が極端に乏しい。

出典: EU Report (Dec.2005)